

日メコン古都シンポジウム(2010年6月22日、於:奈良)



「日メコン古都シンポジウム -未来へつなごう! いにしへのきずな-」

2010年6月22日(火) 於:奈良県新公会堂 9:30~16:00

主な出席者:

日本:藤村修外務副大臣, 荒井正吾奈良県知事,

上野邦一奈良女子大学名誉教授, 宗田好史京都府立大学准教授,

加藤英一東海大学教授, 廣野隆信奈良県文化観光局長他

カンボジア:スー・ピルン・シナムリアップ州知事

タイ:ウィッタヤー・ピウポン・タイ・アユタヤ県知事

ベトナム:グエン・ヴァン・ソン・ハノイ・コーロア遺跡保存センター所長

ミャンマー:チョウ・ウ・ルイン考古学・国立博物館・図書館局長

ラオス:ソンバット・イエリーフー首都ビエンチャン市長

約100名の聴衆。21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYS)で訪日中のメコン地域諸国の文化遺産保護・観光開発関係青少年49名も出席。



- 2009年11月の第1回日本・メコン地域諸国首脳会議で、鳩山総理(当時)から、メコン地域には多くの文化遺産が存在しており、観光や文化、人と人との交流にもつながる世界遺産を含む文化遺産の保護への支援を強化していきたいとし、奈良遷都1300年、ハノイ遷都1000年、ビエンチャン遷都450年という節目の年であるとして本年の奈良における本件シンポジウムの実施を提案。

- 日本とメコン地域諸国の文化遺産保護、地方自治体、観光分野の関係者が一同に集まり、文化遺産保護と観光開発について意見交換を行う初めての機会となった。



日メコン古都シンポジウムでの主な論点



セッション1

文化遺産保護と地方行政の課題

●文化遺産の価値を再認識することの重要性

- －有形・無形の身近なものが価値観の変化によって文化遺産に。
- －地域住民の文化遺産に対する理解と継続的な活動が結果的に文化遺産保護に繋がる。
- －若い世代に文化遺産のいわれや歴史を継承することが重要。

●「古都」が抱える様々な課題

- －観光開発の進展による課題(開発による文化遺産の破壊、人口・地下水の利用・交通量等の増加、治安対策等)。
- －自然災害による文化遺産の破壊。
- －文化遺産保護のための予算、技術、人材の不足。

●各国政府、地方自治体による努力、国際的な協力

- －文化遺産保護のための各国政府、地方自治体による法律・条例等の制定(建設物の高さ制限、ゾーニングによる都市計画等)
- －日本や各ドナー国による文化遺産修復への技術・資金支援。

セッション2

古都における観光と開発

●観光産業の可能性と課題

- －メコン地域諸国における文化遺産を生かした経済発展の潜在力は高い。観光収入を地域住民の生活向上につなげる必要がある。
- －各国が抱える課題は異なる(観光規模、治安・衛生など受入体制の格差、観光の「量」から「質」の増加への対応等)。

●行政と住民参加型の観光開発

- －文化遺産を適切に保護し、持続可能な観光開発のため、行政だけでなく、住民の意向を取り込み住民も参加する開発計画が必要。
- －行政が主導して地域住民や観光ガイドの意識を向上させることが、観光客に正しい知識を伝え、観光公害の予防につながる。

●古都のきずなを生かした観光開発

- －テーマを持った観光開発(仏教の寺院巡礼、体験型・参加型の観光、ラリーの実施など)。
- －メコン地域で共同で市場調査を行う、地域周遊型の観光開発を行うといった可能性。

今後に向けて

- 文化遺産保護・観光開発分野における日本とメコン地域諸国の関係者の対話・ネットワーク作りの推進。
- 有形・無形の文化遺産の価値を継承するための施策・教育の促進。
- 住民参加型の文化遺産保護、観光開発をメコン地域諸国に導入するための取組支援。